資料6

総合科学技術会議情報通信ＰＴ　　ロボット領域検討会
「次世代ロボット研究連携推進会議」の報告

次世代ロボット研究連携推進会議は、平成２１年度計３回の会合を開催し、「府省 の枠を超えた一体的な取組」について検討を行った。（経緯は別紙１）

（１）開催日
①第１回会合：平成２１年６月　　５日（火）１５：３０－１７：３０
②第２回会合：平成２１年７月２２日（水）１５：００－１７：００
③第３回会合：平成２２年１月２２日（金）１５：００－１７：００
＊この間、府省連携の戦略策定のため、適宜メールベースによる検討を行った。

（２）府省連携の推進
第１回、第２回の会合にて、生活支援ロボット施策（特にネットワークロボ ット（別紙２））の必要性等について議論が行われ、これを受けて、総務省、 経産省では、平成２１年６月１９日付「平成２２年度の科学技術に関する予算 等の資源配分方針」に基づく具体的連携が検討された。
本府省連携については、平成２１年８月２７日に、予め優先扱いとする「府 省の枠を超えた一体的な取組」（別紙３）と認定されたが、その後、平成２１年１０月８日付の新たな資源配分方針においては、特別扱いとはならなくなった。結果として、平成２１年１２月９日付「平成２２年度概算要求における科学 技術関係施策の優先度判定等について」において、総務省、経産省の府省連携 施策は共に「優先判定」とされた。

（３）ロボット研究の将来についての検討 第３回会合において、佐藤座長から「地域再生型ロボットサービスグリッドの 構築」（別紙４）の構想を示され、今後、民間（「ネットワークロボットフォーラム」、「ロボットビジネス推進協議会」等）を中心に検討することとなった。

別紙1

「府省の枠を超えた一体的な取組」についての経緯

（１）第１回会合：平成２１年６月５日（火）

① 各府省のロボット関連施策について報告。

② 府省間連携の検討を行い、平成２２年度予算要求を準備

（２）平成２１年６月１９日付：「平成２２年度の科学技術に関する予算等の資源配分方針」のⅢ．総合科学技術会議における取組の強化、２．府省の枠を超えた 一体的な取組の推進、において、「・・・複数府省が連携して戦略および戦略を実施するための関連施策のパッケージを策定しようとした場合であって、概算要求に先立ち、総合科学技術会議がその妥当性を確認（認定）した場合には、当該施策パッケージについては、社会還元プロジェクトや健康研究概算要求方針に盛り込まれた施策と同様に、個別に優先度判定等を行わず、施策パッケージとして最重要政策課題と見なすこととする。」

（３）第２回会合：平成２１年７月２２日（水） 平成２１年６月１９日付「平成２２年度の科学技術に関する予算等の資源配 分方針」に基づき、総務省と経済産業省の施策を連携し、施策パッケージを 準備することとなった。

（４）平成２１年８月２７日：科学技術政策担当大臣・総合科学技術会議有識者議員 が、「平成２２年度の科学技術に関する予算等の資源配分方針」に基づく「府 省の枠を超えた一体的な取組」として、「次世代ロボット研究連携推進戦略に 基づく一体的な取組」を認定。

（５）平成２１年１０月８日付「平成２２年度の科学技術に関する予算等の資源配分 方針」の「Ⅴ．総合科学技術会議による効果的な優先度判定等」において、「また、各府省等には、一層府省間の連携を強化し、府省横断的な研究プロジェクトの推進や、基礎研究と実用化の一体的な推進を図るよう務めることをあわせて求める。」に変更。

（６）平成２１年１２月９日付「平成２２年度概算要求における科学技術関係施策の 優先度判定等について」において、総務省、経産省の府省連携施策は共に「優 先判定」とされた。

（７）第３回会合：平成２２年１月２２日（金）

① 「府省の枠を超えた一体的な取組」の経緯について説明

② 「平成２２年度概算要求における科学技術関係施策の優先度判定等について」のロボット関連施策について説明

③ 府省連携の現況と計画等について報告等

④ 今後のロボット研究について議論。佐藤座長が「地域再生型ロボットサー ビスグリッドの構築」の構想を示され、今後、民間（「ネットワークロボットフォーラム」、「ロボットビジネス推進協議会」等）が中心に検討することとなった。

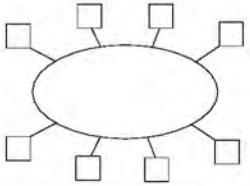
「次世代ロボット研究」府省連携戦略に基づく一体的取組の概要

別紙2

総務省

ロボットのネットワーク化

①H21～24：高齢者・障害者のためのユビキタスネットワークロボット技術の研究開発



従来の連携《科学技術連携施策群》
- 施策の重複排除
- 共通の**ロードマップ**を作成
- 共同で**市場調査**を実施
- **共通プラットフォーム技術**の検討・開発

経済産業省

単体ロボットの高度化・知能化

②H20～22：基盤ロボット技術活用型オープンイノベーション促進プロジェクト

③H17～23：次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト

府省連携（H22～）

両省ロボット施策の一体的推進

ロードマップ、市場調査に基づくロボット・サービスの産業化

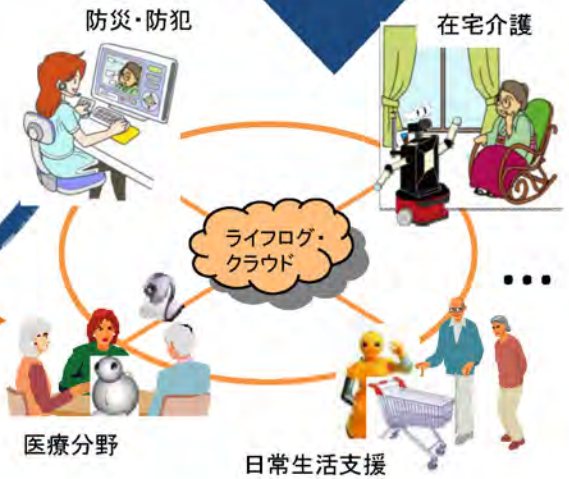
一体的取組による成果（H24年以降）

経済産業省が開発した複数の次世代知能化ロボットを

総務省が開発した高度な通信機能により

連携させて動作

- 市場化
- 普及展開



別紙3

次世代ロボット研究連携推進戦略に基づく
一体的な取組について

平成 21 年 8 月 27 日
情報通信担当

今後の実用化が期待されている「多分野・多地点におけるサービスロボット」（次世代ロボット）について、情報通信ＰＴロボット領域検討会「次世代ロボット研究連携推進会議」による戦略に基づき、総務省と経済産業省が各々実施している以下の施策を一体的に推進する。

総務省

①高齢者・障害者のためのユビキタスネットワークロボット技術の研究開発（平成２１～２４年度）

経済産業省

②基盤ロボット技術活用型オープンイノベーション促進 プロジェクト（平成２０～２２年度）

③次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト（平成１９～２３年度）

地域再生型ロボットサービスグリッドの構築

インタネット＝情報ネットワーク、サイバー世界）
スマートグリッド＝エネルギのネットワーク （実世界情報とエネルギが動く）
エネルギの動きをみる＝人の行動をみる
サービスグリッド＝生活のネットワーク（物人ロボットが動く）

別紙4

地域共同体構築を通じた個別適合サービスとそのインテグレーション

グリーン（エコ、食料）とライフ（安心、安全、健康（医療、介護、ケア）、快適、便利）に関わる社会サービスを地域や社会共同体によって実現する社会技術の開発と社会実装

・国民、住民の生活福祉の実現
・きめ細か産業の育成
・削減CO_2の報告

サービスの場、サービス主体

農家：
地域住民

物流：物流センタ

家：地域住民

商業：スーパ

デリバリ

看まもりサービス

グリーン、食糧

手助けサービス

地域行政：役所

出会い

物流・配食・配達サービス

生活保険、銀行、商社、
サービスインテグレータ
福祉機器やロボットメーカ
インフラメーカ、ロボット
インフラや部品提供会社、
通信会社、要素メーカ、
宅建業、NPO、自治体、
国立研、大学、省庁、国

社会インフラサービス

住民サービス

医療情報

遠隔医療・高齢者福祉サービス

家庭
RT機器・ロボッ
（生活データベー
生活サービスコンテンツ）

安全・安心サービス

電気、水道、ガス
原子力発電

医療：病院・
診療所

交通弱者サービス

ふれあい

出会い

安全、安心：消防署、警察、・・・・

福祉：施設

交流

教育サービス
人材育成サービス

教育：学校

交通：オンデマンドバス
EVシェアリング

・ロボット感動教育
・現場、実物指向
・問題発掘記述能力
・ものつくり能力

ビジネスモデル＋社会要請
・コンテンツ付きメカトロ商品
例）航空機エンジンと運航
IPOD←ウォークマン

実用化モデル
の海外展開

×シーズ主導Proj.
×ミッション指向Proj.
×ユーザ主導Proj.
○バリューチェーンProj.

自立した見識ある人が行動すること＝自律した人の砦として将来をみすえたRTサービスμグリッドを構築することが重要

↑実用＋学術、夢

20100122 佐藤 知正